

新城工場 (TP) CSRLレポート

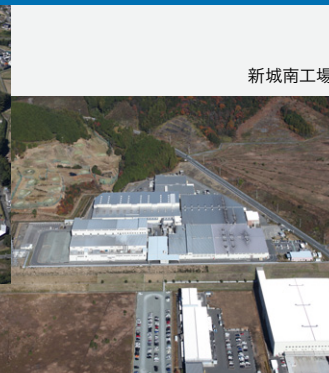
新城工場 事業内容： 乗用車用タイヤ製造
敷地面積： 223,879m²
従業員数： 1,344名 (2015年2月)
所在地： 〒441-1343 愛知県新城市野田字古屋敷1番地

新城南工場 事業内容： 乗用車用タイヤ製造
敷地面積： 110,998m²
従業員数： 437名 (2015年2月)
所在地： 〒441-1338 愛知県新城市一鉄田字大入10番24号

相談・苦情などの受付窓口：
業務課 TEL：0536-22-2251 FAX：0536-23-0353



新城工場



新城南工場

工場長ご挨拶



小林 一司

新城工場は「トップレベルの環境貢献企業」を目指す横浜ゴムの中核工場として、環境に配慮した工場運営に努めています。当工場では環境貢献商品である低燃費タイヤのBluEarthなどを生産する一方、千年の杜活動において工場周囲に自ら育てた苗木を植樹するとともに、地域や他企業にこれまで約16万7百本の苗木提供や植樹支援を行い、地域の方々と環境を保全する活動を行っています。

当工場はタイヤ生産を行う過程で、地域の水資源を大量に利用しています。「自然の恵みをもらうばかりでよいのだろうか？ 私たちに出来ることは何だろうか？」との思いで、工場敷地内や四谷千枚田の休耕田に従業員がピオトープを造り、また清流豊川の水源地や工場排水口で生物多様性調査を行いました。今後もこのような生物多様性

保全活動を継続し、豊かな自然や水資源、そこに住む生物を守る活動を続けて行きます。そして生物多様性保全活動で分かったことや工場として取り組む活動を皆さまにお知らせしてまいります。

工場が所在する新城市とも環境保全協定を結び、工場排水の水質検査、騒音測定などを実施し、地域の一員として生活環境に配慮した工場運営をしております。また、新城市の防災協力事業所に登録し、万一大きな災害が発生した時には工場敷地に避難所を開設し、人的協力や工場施設の提供をすることになっています。

工場敷地内のゴムラ公園を一般開放し、地域の憩いの場としてご利用いただいたり、近隣の小・中・高校生の皆さんや工場見学をご希望される方々の見学受け入れや、地域の区長の方々との懇談会を通じて、工場の取り組みを紹介したり、さまざまな意見をいただくことで、地域に根ざした工場運営を行っています。これからも、地域社会の一員として、皆さまと共に地域に貢献していきます。

組織統治

コンプライアンス教育の実施

法令順守の意識を高めるため、管理・監督者を中心にコンプライアンス教育を実施し、啓発に取り組んでいます。

また、取引先とのCSR勉強会を開催し、社会貢献活動や法令順守を再認識する事で信頼関係の強化に努めています。



CSR勉強会

人権

障がい者雇用の推進

2014年度は新たに1名を採用しました。結果、2014年度末時点で19名(雇用率2.15%)が就業しています。また、障がい者への職場体験実習の場を4名に提供しました。今後も引き続き、障がい者雇用の拡充と職場環境の充実に取り組んでいきます。



障がい者雇用



安全衛生への取り組み

従業員、協力社員の安全と健康の確保が企業活動の基盤であるとの認識のもとに、安全、健康で快適な職場を実現するための手段として、JISHA（中央労働災害防止協会）方式適合OSHMS（労働安全衛生マネジメントシステム）の認証取得から3年が経過しました。

このマネジメントシステムを適切に実施運用したことにより、2014年は更新監査の結果、高い評価を頂く中で認定継続となりました。

管理者と監督者の強力なリーダーシップを前面に掲げて、従来の活動に新たな取り組みを加えて、以下のような活動を展開してきました。

- ・ 新城工場安全衛生委員会・南工場安全衛生委員会（各1回／月）
- ・ 協力業者環境安全分科会、協力業者と設備課による安全巡回、労使協議会、安全担当者会議（各1回／月）
- ・ 工場トップによる安全フォローの定例実施
- ・ 過重労働の管理強化
- ・ 過去に発生した災害の振り返り

従業員の教育・訓練

従業員への安全教育に関しては、入社時の安全衛生教育に始まり、役付者による従業員への1対1教育、体感訓練、リスクアセスメント実践研修会、KY（危険予知）大会、安全ワーカー認定育成訓練を中心に展開しています。



安全KY大会

災害時の対応

災害時の対応は、防火・防災年間活動計画に沿って、定例的な防災避難訓練を実施しています。訓練時には、自衛消防組織本部を設置して、消火訓練や救出訓練を実施し総合的な対応が取れるよう訓練しています。また新城消防署との合同消火訓練も定期的の実施しており、本年も9月に実施しました。そのほかの取り組みについては以下のとおりです。

- ・ 地震防災訓練
- ・ 油流出処置訓練
- ・ 救急救命技能講習…30名受講



防災訓練

横浜ゴム株式会社 新城工場 環境方針

新城工場は、「トップレベルの環境貢献企業」を目指す
横浜ゴム株式会社の中核工場として、その先駆けとなります。

- (1) 心と技術をこめたモノづくりにより、幸せと豊かさに貢献し、先手管理により「環境汚染・感覚公害の予防」と「環境を保全する改善」を継続的に実践します。
- (2) 新城工場を構成するすべての部門・関連企業は、自ら定めた環境マネジメントシステムに従い、仕組みを作り、維持し、環境経営の持続的向上を実践します。
- (3) 関連する法令・条例・協定・契約等を遵守し、全ての関係者の皆様とのコミュニケーションを深め、地域貢献と社会貢献に取り組みます。
- (4) エネルギー・原材料・水等の限りある地球資源を守るため、そのムダ使用を防止する行動を実践し、3R(*)を推進し、低炭素社会・循環型社会の実現に貢献します。
*Reduce：発生抑制、Reuse：再使用、Recycle：再生使用
- (5) 本方針を具現化するため、環境目的・目標を設定し、計画的に実行し、結果の見える化により確実な推進をします。また、方針・目的・目標は定期的に見直すとともに、必要に応じて改定します。

- (6) 水豊かな豊川水系にある新城地域の生き物を大切に、生物多様性の保全に取り組めます。
- (7) 《山の湊》新城市の恵まれた自然と調和・融合し、「YOKOHAMA 千年の杜」活動を通じ、育樹活動と植樹指導、苗木提供により、地域貢献と自然と人の共生を目指します。
- (8) 新城工場で働く全ての人が、本方針を理解し行動できるよう教育と啓発を行い周知徹底します。
- (9) 本方針は公開します。

2015年4月1日
横浜ゴム株式会社 新城工場
工場長 小林 一司

温室効果ガス排出量の削減

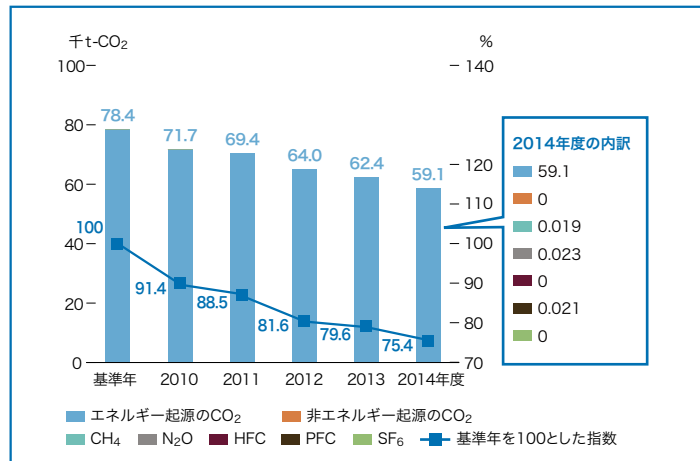
省エネ活動の推進

保温材の取り付け、照明のLED化等、高効率機器の採用による省エネや自主保全によるエアークリップ修理、窓にエアークリップを貼っての保温活動など工場全体活動による省エネ活動により、燃料・電力のムダを削減して温室効果ガスの削減を図っています。

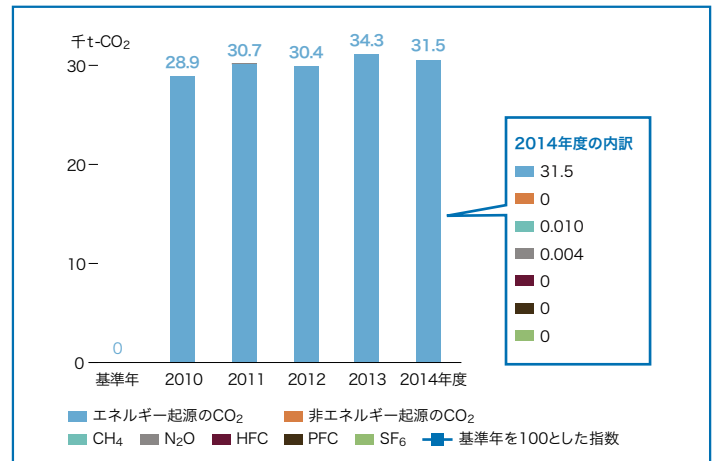
環境データ&解説

■温室効果ガス排出量の削減

新城工場



新城南工場

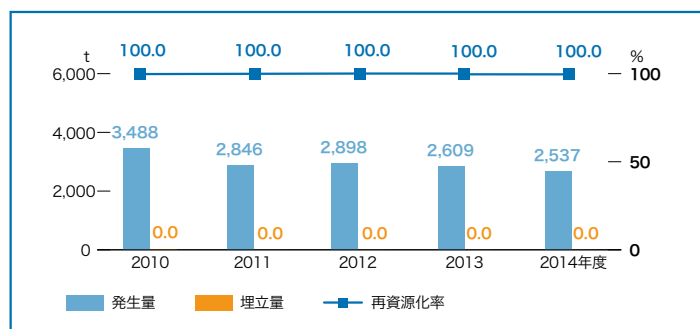


※基準年:1990年を原則としています。京都議定書に準じてHFC、PFC、SF₆は1995年としています。
 ※温室効果ガス(GHG)の算定方法:環境省・経済産業省発行の「温室効果ガス排出量算定・報告マニュアル」に準拠しています。
 なお、2009年度の電力購入からのGHG算定は、環境大臣公表の契約電力会社別実排出係数を使用しています。
 ※2011年度は決算期が4-12月となりましたので、2011年1-3月データを重複させて1-12月で集計しています。

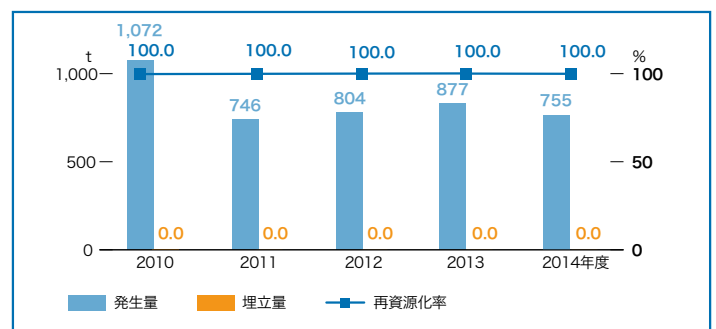
■資源の有効活用/廃棄物の削減

・廃棄物データ

新城工場



新城南工場



・水使用量

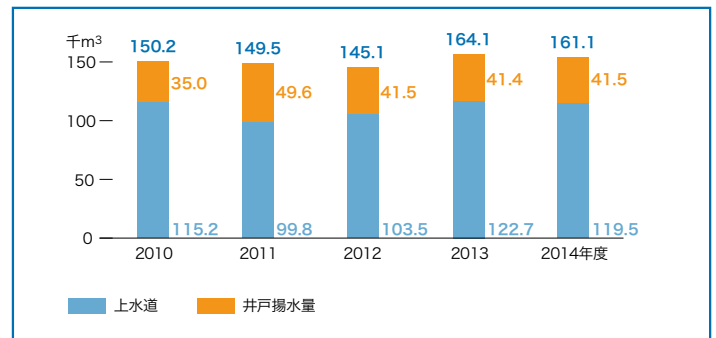
新城工場: 上水道および豊川と豊川支流野田川より工業用水として取水しています。

新城工場



新城南工場: 上水道および井戸水を工場用水として取水しています。

新城南工場



■水・大気・土壌への排出対策

・水質汚濁にかかわるデータ

新城工場：月2回20項目を愛知県、新城市の条例・協定に基づき、自主規制値を設定し、その範囲内で監視をしています。

新城工場

排水口	項目	規制値	自主管理値	2014年度実績		
				平均値	最大値	最小値
No.1排水	PH	5.8～8.6	6.5～8.0	7.35	7.6	7.1
	BOD濃度 (mg/l)	20	14.0以下	1.81	3.2	1.0
	COD濃度 (mg/l)	20	14.0以下	3.25	4.8	1.7
	SS濃度 (mg/l)	20	14.0以下	1.80	4.0	1未満
	油分濃度 (mg/l)	10	5.0以下	0.5未満	0.5未満	0.5未満
No.2排水	PH	5.8～8.6	6.5～8.0	7.53	7.7	7.1
	BOD濃度 (mg/l)	20	14.0以下	1.53	3.4	0.5未満
	COD濃度 (mg/l)	20	14.0以下	3.02	4.3	2.1
	SS濃度 (mg/l)	20	14.0以下	1.29	2.0	1未満
	油分濃度 (mg/l)	10	5.0以下	0.5未満	0.5未満	0.5未満

※公害防止協定、愛知県条例に準拠

新城南工場：月1回20項目を愛知県、新城市の条例・協定に基づき、自主規制値を設定しその範囲内で監視をしています。

新城南工場

排水口	項目	規制値	自主管理値	2014年度実績		
				平均値	最大値	最小値
No.1排水	PH	5.8～8.6	6.5～8.0	7.6	7.7	7.1
	BOD濃度 (mg/l)	20	14.0以下	4.6	6.0	2.7
	COD濃度 (mg/l)	20	14.0以下	6.0	9.4	3.9
	SS濃度 (mg/l)	20	14.0以下	2.0	4.0	1未満
	油分濃度 (mg/l)	10	5.0以下	0.5未満	0.5未満	0.5未満
No.2排水	PH	5.8～8.6	6.5～8.0	7.6	7.8	7.2
	BOD濃度 (mg/l)	20	14.0以下	3.6	7.5	1.9
	COD濃度 (mg/l)	20	14.0以下	4.9	8.2	2.4
	SS濃度 (mg/l)	20	14.0以下	1.6	3.0	1未満
	油分濃度 (mg/l)	10	5.0以下	0.5未満	0.5未満	0.5未満

※公害防止協定、愛知県条例に準拠

・排水先

	排水口	排水先(川名)
新城工場	No.1排水, No.2排水	野田川
新城南工場	No.1排水, No.2排水	黒田川

・大気汚染物質 (NOx、SOx)

項目	NOx排出量(t/年)	SOx排出量(t/年)
新城工場	27	—
新城南工場	13	4

新城工場

施設名称	項目	規制値	自主管理値	2014年度実績		
				平均値	最大値	最小値
1号ボイラー	硫黄酸化物排出量(m³N/h)	第三条の規定	0	0.02未満	0.02未満	0.01未満
	窒素酸化物濃度(ppm)	130	100	61	68	54
	ばいじん濃度(g/m³N)	0.1	0.1	0.001未満	0.001未満	0.001未満
2号ボイラー	硫黄酸化物排出量(m³N/h)	第三条の規定	0	0.02未満	0.02未満	0.01未満
	窒素酸化物濃度(ppm)	130	100	62	70	54
	ばいじん濃度(g/m³N)	0.1	0.1	0.001未満	0.001未満	0.001未満
コージェネレーション	硫黄酸化物排出量(m³N/h)	第三条の規定	0	0.13未満	0.14未満	0.13未満
	窒素酸化物濃度(ppm)	100	80	64	73	52
	ばいじん濃度(g/m³N)	0.05	0.05	0.001	0.002	0.001
温水ボイラーA	窒素酸化物濃度(ppm)	150	120	36	36	35
	ばいじん濃度(g/m³N)	0.1	0.1	0.001未満	0.001未満	0.001未満
温水ボイラーB	窒素酸化物濃度(ppm)	150	120	34	36	31
	ばいじん濃度(g/m³N)	0.1	0.1	0.001未満	0.002	0.001
ディッピングマシン	硫黄酸化物排出量(m³N/h)	第三条の規定	第三条の規定	廃止		
	窒素酸化物濃度(ppm)	250	150			
	ばいじん濃度(g/m³N)	0.15	0.1			

※大気汚染防止法、愛知県条例、新城市公害防止協定に準拠

新城南工場

施設名称	項目	規制値	自主管理値	2014年度実績		
				平均値	最大値	最小値
1号高压ボイラー	硫黄酸化物排出量(m³N/h)	第三条の規定	第三条の規定	休止中		
	窒素酸化物濃度(ppm)	180	150			
	ばいじん濃度(g/m³N)	0.25	0.1			
2号高压ボイラー	硫黄酸化物排出量(m³N/h)	第三条の規定	第三条の規定	休止中		
	窒素酸化物濃度(ppm)	180	150			
	ばいじん濃度(g/m³N)	0.25	0.1			
3号高压ボイラー	硫黄酸化物排出量(m³N/h)	第三条の規定	第三条の規定	0.02	0.06	0.002
	窒素酸化物濃度(ppm)	180	150	72	73	71
	ばいじん濃度(g/m³N)	0.25	0.1	0.0025	0.004	0.001
4号高压ボイラー	硫黄酸化物排出量(m³N/h)	第三条の規定	第三条の規定	0.02	0.06	0.02
	窒素酸化物濃度(ppm)	180	150	68	70	66
	ばいじん濃度(g/m³N)	0.25	0.1	0.0215	0.04	0.003
5号高压ボイラー	硫黄酸化物排出量(m³N/h)	第三条の規定	第三条の規定	0.035	0.06	0.02
	窒素酸化物濃度(ppm)	180	150	70.5	71	70
	ばいじん濃度(g/m³N)	0.25	0.1	0.011	0.002	0.002
6号高压ボイラー	硫黄酸化物排出量(m³N/h)	第三条の規定	第三条の規定	0.02	0.02	0.02
	窒素酸化物濃度(ppm)	180	150	79	79	79
	ばいじん濃度(g/m³N)	0.25	0.1	0.011	0.02	0.002
1号低压ボイラー	硫黄酸化物排出量(m³N/h)	第三条の規定	第三条の規定	0.01未満	0.01未満	0.01未満
	窒素酸化物濃度(ppm)	180	150	79	79	79
	ばいじん濃度(g/m³N)	0.25	0.1	0.003	0.003	0.003
2号低压ボイラー	硫黄酸化物排出量(m³N/h)	第三条の規定	第三条の規定	0.01未満	0.01未満	0.01未満
	窒素酸化物濃度(ppm)	180	150	73	73	73
	ばいじん濃度(g/m³N)	0.25	0.1	0.002	0.002	0.002
4t 1号ボイラー	硫黄酸化物排出量(m³N/h)	第三条の規定	第三条の規定	0.04	0.04	0.04
	窒素酸化物濃度(ppm)	180	150	91	91	91
	ばいじん濃度(g/m³N)	0.3	0.1	0.003	0.003	0.003
4t 2号ボイラー	硫黄酸化物排出量(m³N/h)	第三条の規定	第三条の規定	0.04	0.04	0.04
	窒素酸化物濃度(ppm)	180	150	55	100	10
	ばいじん濃度(g/m³N)	0.3	0.1	0.002	0.003	0.001

※大気汚染防止法、新城市公害防止協定に準拠、新城市との環境保全協定

化学物質の管理状況についての報告 (PRTR法への対応)

対象物質を6月に愛知県に報告しています。また、使用量の削減と代替品への転換を常に検討しています。

取引先との CSR 活動

取引先との強固な CSR 活動の一環として、第二回 CSR 勉強会を開催し、参加取引先 30 社に参加していただき、CSR 調達、人権（ハラスメント）、情報管理について法令順守および危機管理を再確認しました。



CSR勉強会

消費者課題

消費者とのコミュニケーション

自動車産業品質マネジメントシステム規格（QMS）である ISO/TS16949 認証をベースとした品質管理により、お客さまに信頼される品質の製品を提供しています。また、日本ならびに海外の自動車メーカーさま、販売会社さまや一般のお客さまの工場見学を通して、品質に対する取組みも紹介しています。

苦情などへの対応

製品についてお客さまからの問合せには、迅速に調査しご報告しています。調査の結果、製造に起因する場合は、いち早く対策し、再発の防止に努めています。

コミュニティへの参画及びコミュニティの発展

千年の杜活動

愛知県の水源地を守る森、静岡県津波から命を守る防潮林の植樹など植樹支援に 36 回 269 名が参加し地域の方々と森作りに取り組みました。また 2014 年は 34,472 本の自ら育てた苗木を各地域の植樹に提供しています。

千年の杜活動（2014 年度）

1月 6日	モリコロパーク植樹	7 名支援	苗木	500 本提供
1月 21日	生き物を育む森作り	6 名支援	苗木	95 本提供
2月 10日	モリコロパーク植樹	5 名支援	苗木	50 本提供
3月 1日	掛川市大淵海岸防災林植樹	18 名支援	苗木	1,020 本提供
3月 7日	鳳来東小学校卒業記念植樹	6 名支援	苗木	220 本提供
3月 23日	牧之原市静波海岸植樹	15 名支援	苗木	1,050 本提供
4月 3日	新児童と家族記念植樹	6 名支援	苗木	810 本提供
4月 13日	岩沼・長久手市長講演	20 名支援	苗木	120 本提供
4月 19日	大槌町植樹	50 名支援	苗木	170 本提供
5月 22日	モリコロパーク植樹	7 名支援	苗木	230 本提供
5月 30日	宮城岩沼「千年希望の丘」植樹	4 名支援	苗木	1,020 本提供
6月 13日	掛川市千浜小学校苗作り	3 名支援	苗木	1,700 本提供
6月 28日	トヨタの森苗作り	2 名支援	苗木	100 本提供
7月 13日	岐阜県加子母水源の森植樹	2 名支援	苗木	211 本提供
7月 17日	鳳来東小学校岩沼用苗作り	1 名支援		
7月 30日	モリコロP岩沼モデル植樹	7 名支援	苗木	146 本提供
8月 5日	鳳来東小学校苗作り指導	1 名支援	苗木	28 本提供
8月 17日	岐阜県中津川水源の森植樹	1 名支援	苗木	50 本提供
8月 29日	モリコロP植樹	7 名支援	苗木	60 本提供
9月 21日	モリコロP苗作り指導	4 名支援		
9月 29日	モリコロP植樹	7 名支援	苗木	510 本提供
10月 10日	東栄町水源の森植樹	7 名支援	苗木	60 本提供
10月 14日	城北こども園苗作り指導	1 名支援		
10月 18日	八楽児童寮マスコット作り	1 名支援		
10月 22日	東栄町水源の森植樹	6 名支援	苗木	50 本提供
10月 26日	岐阜県下呂水源の森植樹	1 名支援	苗木	60 本提供
11月 15日	生物多様性大海植樹	16 名支援	苗木	1,000 本提供



千年の杜活動

11月 16日	秋のさくら祭り	18 名支援	苗木	943 本提供
11月 18日	モリコロP植樹	7 名支援	苗木	134 本提供
11月 20日	城北こども園苗作り指導	1 名支援		
11月 21日	鳳来東小学校苗作り指導	4 名支援	苗木	230 本提供
11月 22日	城北こども園苗作り指導	1 名支援		
11月 29日	掛川シンポジウム植樹	13 名支援		
12月 9日	モリコロP植樹準備	2 名支援		
12月 12日	東栄町水源の森植樹	6 名支援	苗木	30 本提供
12月 23日	モリコロP植樹準備	7 名支援	苗木	20 本提供



千年の杜

生物多様性保全活動

工場ではタイヤを生産するのに大量の水を利用しています。「私たちは自然から水資源の恵みをもらえばかりでよいのだろうか？ 私たちにできることは何だろうか？」との思いで生物多様性調査を 2012 年から開始しました。2014 年は 24 回の水質・水生生物の調査と水源地にビオトープを作る保全活動を行いました。今後も生物多様性保全活動を実施し、地域の水資源、生物を保全する活動を継続します。

また、愛知県が推進する新城設楽生態系ネットワーク協議会に参画し、行政・大学・NPO・他企業と協業で新城設楽地域の生物多様性に貢献していきます。



生物多様性ビオトープ作り



地域社会とのかかわり

工場周辺地区区長および環境モニター工場見学・懇談会を 6 月 30 日に 12 名をお招きして開催しました。貴重なご意見を工場運営に生かし、さらに親しまれる工場づくりを致します。

新城市主催のしんしろクリーンフェスタに 87 名が参加し、市民の皆さまと共に地域美化活動を行いました。また延べ 986 名の工場従業員が毎月、工場周辺の清掃活動を実施しました。

11 月 16 日の秋のさくら祭りでは、どんぐりマスコット教室の開催と苗木 943 本をプレゼントすることにより、市民の皆さまとふれあいの場を持つことができました。



秋のさくら祭り

11 月 1、2 日の 2 日間、第 11 回となる全日本ラリー選手権「新城ラリー 2014」が、県営新城総合公園で開催されました。新城工場は第 1 回から協賛しており、会場・コース設営やブース出展を続けています。観戦者は 2 日間で過去最高の 4 万 8 千人を記録し、YOKOHAMA ブースにも多数のお客さまが訪れました。